

コロナ禍からの学び。月曜通信 環境科学部長 岡田二郎 (2022.2.14)

長崎大学 学生のみなさん

こんにちは！

長崎大学人，河野茂です。

各学部長に寄稿をお願いしている「月曜通信」ですが、今月は環境科学部長、岡田二郎先生から皆さんへのメッセージを送ります。

岡田二郎先生 紹介ホームページ

<https://researchers.ir.nagasaki-u.ac.jp/researchdetail.php?id=dTg3YjI2TGpSdXpoNXJuUzBkOGE4R0dCTTFUQnVPcDM3UG9DbIE9PQ==>

「コロナ禍からの学び」

環境科学部長 岡田二郎

「コロナという言葉聞くのはもううんざり」と考えている方は多いと思います。

この2年間、何事も諦めざるを得なかった皆さんはずっと悔しい思いを重ねてきたことでしょう。

ところで、私はといえば、普段自然を相手に研究しており、また幸い自身や家族が感染したことなく、コロナを振り返って、辛く苦しい思い出があまり浮かびません。

そんな私がコロナで気づいたこと、そして次世代を担う皆さんにお伝えしたいことを述べます。

Google Scholar という学術検索エンジンをご存知かと思います。

試しに「COVID-19」というキーワードを入力すると、なんと200万件もの学術情報がヒットします。

それらの中身を吟味した訳ではありませんが、人類は、COVID-19に出会ってからたった2年あまりで膨大な知識を積み重ねたことが分かります。

おそらくここで得た英知は、来るべき次のパンデミックの際に計り知れない恩恵をもたらすでしょう。

「塞翁が馬」、「禍福は糾(あざな)える縄の如し」等々、良い事と悪い事は表裏一体である、という意味の諺は古から数多くある通り、私達はコロナを体験することで、色々と勉強させ

てもらう機会を得た訳です。

この度のパンデミックは、私達のコミュニケーションも一変させました。

人々が集うことに制限がかかり、私達は直接人と会って生の会話を楽しめなくなりました。しかし、おかげで ICT は急速に普及・発展し、世界中の人々が今や手軽にオンラインで結ばれるようになりました。

学校では遠隔授業が可能になり、多様な教育手法が使えるようになりました。職場では在宅勤務が特別なことではなくなり、都会から自然豊かな地方へ移住する人も増えたそうです。

これまでに世界で 600 万人近くが COVID-19 で落命したことを考えると、人類の損失はあまりに甚大です。

この疫病がなかったらどんなに楽しい時間を過ごし、素晴らしい思い出を残せたか、皆さんの無念さを考えるとあまりに切ないです。

しかし、同時に皆さんは自身の健康について深く考え、社会経済が健全に機能することの重要性や、人同士の直接的コミュニケーションの意義などを勉強させてもらったと思います。これからのポスト・コロナ時代は、きっと新たな挑戦が皆さんを待っていることでしょう。大事なのは、今回の悪夢のような出来事から学んだことを基に、どのように行動するかです。新しい時代での皆さんの活躍に大いに期待しています。